

高齢者が尊敬され、大切にされる社会をつくる



笑顔あふれる介護なら

# ゴールドエイジ株式会社



施設外観

## 企業概要

代表取締役社長

香山 元寿氏



所在地 愛知県名古屋市中村区名駅3丁目11番22号  
IT名駅ビル1階

TEL:052-588-2060 FAX:052-588-2062

設立 2006年9月

従業員数 958名(2021年11月末)

事業内容 サービス付き高齢者向け住宅の管理運営、訪問介護事業、居宅介護支援事業、通所介護事業、訪問看護事業

URL <https://goldage.co.jp>

「二人ひとりによりそったチームケア」を提供し、生きがい、安心、笑顔でいっぱいの住空間を実現する。

## 高齢者が安心できる「すまい」を提供

ゴールドエイジ株式会社は、アサヒグローバルホーム株式会社等を傘下に持つAGGホールディングスのグループ会社の1つである。

アサヒグローバルホーム(株)の代表取締役で、ゴールドエイジ(株)の取締役会長である久保川議道氏は、「すまい」に強いこだわりを持ち、アサヒグローバルホーム(株)を1976年に立ち上げ、注文住宅のほか、集合住宅や賃貸マンションなどの不動産事業を展開してきた。その中で、住む方が安心して、日々の幸せを感じられるような高齢者向け住宅を提供しようと、2006年に、サービス付き高齢者向け住宅(以下、サ高住)の管理運営等を事業とするゴールドエイジ(株)を設立した。

当初、同社には介護に関するノウハウがなく、介護サービスは他社に委託していた。しかし、介



リビング

護に対する価値観の違いから、すべてを自前で行うことを決断、委託業者の社員をゴールドエイジ(株)に転籍させ、同年に新体制で再スタートした。その後も、画一的ではなく個々の入居者が望むケアの提供を目指し、試行錯誤を繰り返しながら成長を続けてきた。

現在、サ高住は40館あり、三重県、愛知県を中心に、静岡県、岐阜県、神奈川県、栃木県、山梨県、宮城県に展開。高齢者住宅新聞による、2020年運営居

室数ランキング(その他の高齢者住宅)では全国8位(非上場では1位)、三重県、愛知県で1位を獲得している。

### サービス向上に向けた取り組み

介護業界は、担当者や繁忙状況による「サービスのばらつき」が課題の一つといわれる。質の高いサービスを安定して毎日提供できることが、入居者からの信頼につながる。同社では、基礎研修の充実や事例発表会の開催、現場との情報交換を行うことで、サービスの質の統一を図った。

「基礎研修」では、外部講師等に頼らず、館ごとに現場を知る社員が他の社員を指導するスタ



理学療法士の指導の下で行うリハビリ

へ改変し、館長の負担は軽減された。その結果、香山社長の就任後、館長の退職は1人もいないという。「1人も辞めずに働いてくれていることが一番の財産。今後は、館長の上にあたるポジションを作り、事業のさらなる成長を図りたい」と話す。

### 今後、展開を考えているサービス

団塊ジュニア世代が65歳以上となる2040年問題(※1)にあるように、支援は必要ないが、日々の生活に不安を感じる方が増える。同社ではそのような方が安心して暮らすことができる自立型の分譲シニアマンション「ゴールドライフ」の充実に力を入れている。外出や友人を呼ぶことも自由で、入居者の中には、お花や料理の先生をされていた方もみえ、入居者同士で教室を開くなど、コミュニティが形成されているという。

「ゴールドライフの最初の入居者が『第2の人生をこれから楽しむことができる』と喜び、手紙までくれたことが非常に印象的

イルで行う。自らが教える立場になることで、知識や技能の定着度向上につながるからだ。「教わる→教える→教わる」という循環で、社員が成長し続ける仕組みとなっている。

「事例発表会」では、日々のサービス提供のなかで、館ごとに好事例(高い評価を受けた取り組み)を紹介し、ランク付けをする。当初、1位を目指そうと、オリジナルにこだわった取り組みが多かったが、数年前からは、前年の他館の事例に自館独自の取り組みを加えた内容が増えたという。代表取締役社長の香山元寿氏は

「良いサービスは他の入居者にも提供したいと、横展開が見られるようになった。業務から離れたところで学ぶのではなく、日々の業務の中で起きる問題から学ぶ。我々は社員がより良くしたいと思うことを吸い上げ、会社の責任において改善していくスタンスを継続していきたい」と話す。

また、「介護経験の少ない私の考えよりも、現場の最前線に立つ館長や社員たちの方が頼りになる」との考えから、月に一度、情

### 現在、ゴールドエイジ(株)が提供しているサービス

提供事業	提供サービス
アクティブケアホーム	訪問介護と介護で補いきれない部分を生活支援としてサービスを提供
デイ型ホーム	日中のデイサービスの活動を中心に、居室での生活や食堂などの活動を生活支援サービスで提供
デイ付きホーム	日常の介護から、リハビリや余暇を目的としたサービスまで住む方の生活スタイルに寄り添うサービスの提供
多機能ケアホーム	定期的な処置、観察はもちろん、突発的に起こることや看取りまで、提携医師と連携してサポート
ナースケアホーム	地域密着のサービスで、「訪問サービス」、「通い」、「泊り」の3つの機能を持った介護サービスを併設
介護付き有料老人ホーム	身体や生活の状況に合わせた介護計画を立て、24時間常駐のケアスタッフがその人に合った生活をサポート
自律型 分譲シニアマンション	一人ひとりに合った24時間切れ目のない家族のような生活支援・介護・医療サービスの提供

だった」と香山社長。高齢になると、生活が縮小し自由が利きにくくなる中で、入居をきっかけに元気になり、楽しいセカンドライフを歩めるのは自律型の施設ならではの特徴といえる。

### 香山社長の夢「ゴールドエイジシニアタウン」

ゴールドライフの入居者が、突然介護が必要になったり、病気に



さまざまな生活サポート

報交換の機会を設定している。それにより、現場に即したサービスが提供できる。「今後、入居者の声を聞き取りたい」とのことだ。

### 人とのつながりとモチベーション

「会社の財産はヒト、モノ、カネと言われる。モノとカネは私が用意することができるが、ヒト(人材の育成)は自分だけではできないため、『人とのつながり』を一番大切にしている」と香山社長。昇給や昇格のタイミングでは社員と自ら面談し、それぞれの成長を具体的に知る場を設けている。社員が頑張っている話を聞く、自分も負けていけないと自身のモチベーションの向上にもつながっているという。

なったりした場合、ゴールドエイジへ優先的に転居することができ、介護の段階に応じたサービスが受けられる仕組みになっている。

高齢者が時々で必要なサービスを受けながら、快適な環境で安心して住まい、経験や技術を生かして働いたり、趣味や勉強などを通して生き生きと過ごすことができる街の構想「ゴールドエイジシニアタウン」の実現が社長の将来的な夢である

「入居者が穏やかな生活を送りながら、当たり前の幸せを日々感じ、社員も夜寝る前に、今日が良い日であったと感じられるようであってほしい、という思いは今も昔も変わらない。徐々にではあるが、その理想に近づいている。今後も『人』を大事にしなが、よりよいサービスの提供ができるよう尽力していきたい」と香山社長は語る。

人との「つながり」を大切にしたい。安心して暮らすことができる。誰もが幸せに暮らすことができる。サービスの実現に期待したい。文 調査グループ 岡澤初樹



快適で安全な居室

### 館長との信頼関係

香山社長が着任した10年前は、館長の入れ替わりが多かったという。館長の考え方が館の運営の方向性に影響を及ぼすため、館長の度重なる交代は社員の疲弊、入居者の不満につながった。そのため香山社長は、館長一人ひとりと話すことから始めた。仕事からプライベートまで、様々なことを話しながら、当社での「やりがい」を感じてもらえるよう、香山社長の思いや目指すことも伝えた。

また、以前はスタッフに急な欠員が出ると、同館内で交代要員を補っていたため、特に夜勤は館長にしわ寄せが行くことが多かった。現在は、館を横断し職員がヘルプで入ることができる制度



2022年4月、津市高茶屋にOPEN予定の分譲型シニアマンション

### 支店より一言

「すべては幸せな住まいから」を実現する同グループ会社。その中で、「住む方が安心して、日々の幸せを感じられるような高齢者向け住宅を提供」している同社。香山社長を中心に職員の方々が、試行錯誤のうえ、ひとつひとつ取り組まれている真剣な姿に敬服いたします。介護だけが目的でない「高齢者の方が尊敬され、大切にされる社会をつくる」企業として更なる発展が期待されます。



百五銀行 四日市西支店長 竹内弘幸

※1 2040年問題 少子化による急速な人口減少と団塊ジュニア世代が高齢者(65歳)になることで高齢者人口が最大となる2040年頃に、日本社会が直面すると予測されている問題の総称。労働力不足や社会保障費の増大など。